住まいのウチイケ

エアコン1台の全館暖房を発売

前准教授招きセミナーも

あいさつする内池社長

自著を手に講演する前准教授

㈱住まいのウチイケ（本社室蘭市、内池秀光社長）は1月15日、ルームエアコン1台による全館空調システムの発売を記念して東京大学前真之准教授を招き、「寒冷地におけるエコハウスと変わる暖房」と題したセミナーを開催した。当日は吹雪模様の天候のなか、札幌などからも参加者が駆けつけた。

「コンフォート24」と名づけられたシステムは、ルームエアコンを使って1階と2階の床下に温風を吹き込み、床面からの伝熱と輻射、床グリルからの自然対流で室内を暖める。ルームエアコンを収納するエアコン室を設け、DCファンを使って床下に温風を供給する。

住まいのウチイケは本社に隣接するモデルハウスの暖房をコンフォート24に切り替え、実際に体感してもらえるように体制を整えた。

前准教授は講演のなかで最新著作の「エコハウスのウソ」の中からいくつかのテーマを抜きだし、消費者にもわかりやすく解説した。

まず、北海道はZEH採択率が低いが、寒冷気候による不利があるので、まず断熱性能を高めて暖房エネルギーを削減した上で、太陽光を検討するのが良いと省エネへのアプローチの順序を提案。また、はだしにおける適正な床温度について触れ、床仕上げ材によって適正な温度は変わるが、熱伝導率が大きいコンクリート床であっても最適な表面温度は28.5℃と比較的低く、ナラの床なら最適は26℃、じゅうたんなら24℃であると説明。コンフォート24を採用したモデルハウスの床温度は高温すぎず、最適温度を維持してもダウンドラフトなどのない誰もが快適と感じる環境になっていることを計測結果から説明していた。

コンフォート24による暖房温度。窓下のパネルヒーターは停止しており、手前の床グリルから暖気が上がっていることがサーモカメラ画像からわかる